

## 鹿児島の昆虫26 鹿児島県に侵入したラデンキンカメムシ(仮称)

昆虫担当 金井 賢一



写真のカメムシは、「ラデンキンカメムシ」とよばれる、キンカメムシ科の美麗種です。国内では2006年に沖縄で初めて発見されましたが、まだ正式な和名ではなく仮の名前＝仮称です。中国・台湾に生息している *Scutellera amethystina* というカメムシによく似ていますが、同種なのかまだ解明されていません。

さてこのきれいなカメムシが、2010年7月に奄美諸島・加計呂麻島の諸鈍小中学校で、谷津校長により発見されました。鹿児島県での初記録です。その後、奄美市笠利町の宇宿小学校：鮫島真一教諭が奄美大島を調査し、瀬

戸内町古仁屋や奄美市名瀬、奄美市笠利町屋仁、さらに徳之島の伊仙町阿権などで生息を確認し、かなり広い範囲に侵入していることが分かりました。ラデンキンカメムシは成虫も幼虫も、アカギの種子を吸って生活することが、鮫島先生の観察により確認されています。

この話を聞き、県立博物館ではトカラ列島、喜界島、徳之島、沖永良部島、与論島の小・中・高校の先生方をお願いして、校庭のアカギを確認してもらった調査を行いました。そこで校庭のアカギを見てもらいました。

その結果、宝島小中学校、沖永良部島大城小学校で11月に発生が確認され、また徳之島にある面縄中学校では夏に死体が確認されました。この3か所は新記録として、平成23年3月発行の県立博物館研究報告にて発表する予定です。アカギは南西諸島に多い木ですが、ラデンキンカメムシは別な樹木を用いて発生するかもしれません。もし皆さんが近所で見つけたら、大発見ですよ！

## 鹿児島の動物22

## 淡水では日本最大！モクズガニ

動物担当 山田島 崇文

モクズガニ *Eriocheir japonica* は、鹿児島ではなじみ深く、ヤマタロウガニと呼ばれています。このカニは、北海道から台湾まで分布し、淡水で捕れるカニとしては日本最大です。河口付近の海から山奥の溪流まで生活範



背面

囲は広く、田んぼのあぜなどを徘徊していることもあります。雑食のようで、藻類のほか、カワナなどの貝や小魚などを食べています。秋には産卵のため河川から海に下り、河口部で繁殖します。生まれた稚ガニは、川をさかのぼり、淡水域で成長し、大きくなるとまた川を下り河口の汽水域に戻ります。

ハサミに毛がはえているのが特徴です。成長するほど毛が発達していき、水中ではぼん

ぼり状に広がり、ハサミが大きく見えます。

甲は全体に丸みを帯びた四角形で、表面は平らです。一般に甲の長さは5センチ、幅は6センチほどですが、大きいものは幅8センチを



腹面

超えます。この甲側は暗緑褐色ですが、一対の白い斑紋があります。また、側縁部にはノコギリの歯のようなとげが3対あります。腹面は白色をしています。

ごく近縁種のシナモクズガニ *Eriocheir sinensis* は、中華料理の上海ガニとしてよく知られています。しかし、両者とも寄生虫の一種である肺吸虫の中間宿主なので、生で食べるのは厳禁です。